

平成24年度 分掌・学年努力目標

[4:よくできた 3:大体できた 2:あまりできてない 1:まったくできてない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間反省	問題点・課題等
教務部	校務の円滑な運営を図る	主任会を通して他分掌との連携を図り学校行事の円滑な運営に努め、学校の活性化を図る。	毎月主任会を開催する。	3.0	・定期考査の日程を2学期末から、期末を5日間、中間を4日間の日程に変更した。これにより金曜を1日入れることができ、採点の時間を確保できた。また、最終日を金曜日に持つことも採点時間の確保に繋がった。しかし、答案は自宅採点できないので最終日の教科担任はそれでも厳しい。 ・校務支援システムの完成年度をむかえた。業務の分担が課題である。担任・教科担任の先生は、指導要録・単原作成においてかなりの業務削減ができたのではないかと、その分教務に協力していただいているのでありがたい。
		職員朝会の伝達がスムーズに行えるように、黒板の工夫、朝会黒板画像を活用する。	6月までに2日分の日程が書き込める黒板の設計を行う。	3.3	
		生徒の実態を踏まえ、学期毎の追試験・補講に取り組む。	3月までに内規の不備を確認する。	3.3	
	授業の充実と努力、学力の向上を図る	行事の精選や時間割の調整・変更をおこない授業時間数の確保に努める。	1単位あたり30時間以上の実施授業時数を確保する。	3.0	
		シラバスを作成し、より充実した内容への点検作業を実施する。	年度末までに次年度分を作成。各学期終了後点検。	3.0	
		生徒の学力の実態を把握し、より実践的な授業研究に努める。	研究した内容を8月までに提出させる。	2.3	
	生徒の進路希望に対応できるコース制を研究する	生徒の進路希望や実態を取り入れた教育課程を編成する。	7月中旬までに終了	3.0	
		魅力あるコース制の研究に努める。	年間を通しておこなう。	2.3	
		PTA・地域社会との連携をはかり教育効果を高める	地域社会及び中学校との連携を深める。	随時	
	教職員の各種研修・研究を推進し、教育活動の活性化を図る	HP・学校新聞を利用して学校のPRに努める。	毎月の更新を促す。学校新聞を毎月発行する	3.7	
		PTAとの相互理解を深め、活動の活性化を図る	各種行事、随時	3.3	
		各種職員研修や報告会を定期的に開催する。	教務、生徒指導、保健相談に関わる研修会を各1回以上おこなう。	3.0	
	読書活動の推進と図書館の充実を図る	各種研修会と、研修の充実を図る。	学期に1回は行う。	2.7	
		教科会等を利用して指導法の研究に努める。	各教科研究授業を行う。	2.3	
		「読書の時間」等を通して、生徒の読書量を増やしていく。	毎日「朝読書」を実施する	3.0	
	環境美化	生徒の興味・関心を促すような図書を購入し、図書館の充実を図る。	年2回希望図書の購入をおこなう	3.0	
		・掃除の徹底	2週間に1回は必ず掃除箇所の点検をして不備な箇所の把握を行う。	2.0	
		・掃除監督の徹底	生徒会の委員会活動を利用して掃除監督者との連絡指示を徹底する。	2.3	
施設・設備	ゴミの分別	毎日、係の美化委員で整理する。	2.7		
	掃除用具の整備、点検	各学期ごと、最後の大掃除で整備点検する。	2.5		
	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	容態指導の徹底を図る。	毎月、容態指導強化週間を設けて指導を行う。	4.0
公と個の境目を理解して、自らの行動を律することができるようにする。			集会時の整列・私語厳禁・美しい容態について全職員一体となって指導を行う。	4.0	
時間厳守指導の徹底を図るため、全職員が授業の開始時間を厳守する。			毎授業時におこなう。	3.0	
公共心の育成		乗車マナーの向上を図るため、JRおよび島鉄の乗車指導を徹底する。	年間10回の乗車指導を実施する。	2.5	
		学校周辺の商業施設での利用マナー等の指導を強化する。	定期的に巡視等を行い、地域関係者と交流し、情報を共有する。	3.0	
生活委員会の充実		挨拶の励行を図るため、職員・生徒が一体となり挨拶運動を推進する。	年8回、生活委員・各部リーダーと一緒に挨拶指導をおこなう。	4.0	
		駐輪場の整理整頓および安全確認に努める。	月1回生活委員で駐輪場の整理整頓および二重ロックの確認を実施する。	2.5	
分掌・学年等との連携		生徒の実態把握と理解を深めるため各学年・分掌との連絡を密にし、指導の強化を図る。	各学年主任・分掌主任と毎月1回は会合を持つようにする。	3.5	
	学年・分掌と協力して、リーダーの育成を図り、生徒の自主性を育てる。	年間2回のリーダー研修合宿を学年・生徒会と連携して実施する。	3.0		

平成24年度 分掌・学年努力目標

[4:よくできた 3:大体できた 2:あまりできてない 1:まったくできてない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間反省	問題点・課題等
進路指導部	学習の定着と基礎学力向上	・進路希望調査実施と学力向上につながる補習・学習会・模試の実施	・進路希望調査を年3回実施 ・モートレ、補習、模試の有効活用、夏季学習会と冬季学習会の実施	3.5	【反省】 ・国立大学に合格する生徒が出たり、就職率の7%で内定率は例年よりも良好であった。 ・全体として、学習意欲が高く、学力が伸び悩んでいる。 ・低学力の生徒の指導にかなりの労力が取られ、上位層の学力が伸び悩んだ。 ・部会を定例化することができ、円滑に業務が行えた。 ・補習や模試等先生方の協力のもと円滑に実施できた。 ・言葉遣いが適切でない生徒が多く、面接指導に時間がかかった。 ・就職試験1回目で内定する生徒が少なかった。 ・すべてに出席する生徒がおり、就業試験の運営がむなしかった。 ・インターンシップや進路説明会、講演会等学年の先生方の協力で円滑に進められた。 【課題】 ・学力上位層の押し上げ(個別指導)。 ・教育課程(資格所得や座学でない学習の導入)やコース制の見直しや習熟度別クラス編成。 ・モートレの基礎学力を定着させる計画的な改善や取り組みの徹底。 ・授業の成立を前提とした自学自習が定着しなかった。 ・国立大や高等専門学校志望者への学力向上に向けての授業改善。 ・DSの生徒は就職試験に対応できていないので、基礎学力の向上が望まれる。
		・進路実現のため全職員による進路体制の確立	・各学年・教科と連携をとり、学力検討会を実施 ・学力検討会を3回、志望校検討会を2回実施	3.3	
		・モートレ、補習、土曜日・長期休業中の学習会で学習習慣の定着		3.0	
	個々の進路意識の高揚	・学年・進路別集會、進路講演会・進路ガイダンスの開催	・講演会やガイダンスを学年ごとに年2回づつ開催 小論文、教科の添削指導	3.5	
		・ファインシステム等の成績分析を基にした進路相談	・進路相談会・進路ガイダンスの開催	2.8	
		・2年次でインターンシップを実施し、職業観を育成	・進路説明会・職場見学への協力	3.0	
		・個に応じた小論文・面接・教科指導等の計画実施		3.5	
	進路情報の提供 進路室の有効活用	・進路希望を把握し、適切な進路情報の精選と迅速な提供	・各クラスに進路に関する情報誌等を年6冊配布 ・ファインシステムなどにより担任に学期に1回資料提供	3.3	
		・「進路だより」等で情報の提供を行う。	・「進路だより」の年4回以上発行 ・定期的な資料の更新と削除の徹底	4.0	
		・模試データ等を分析し、学年や教科と情報の共有・有効活用		2.7	
・進路室のデータの系統的整理整頓			3.0		
生徒会指導部	自治能力の育成	他校生徒会との交流を図る。	年に1回以上、他校生徒と交流する機会を設ける。	3.0	しおかぜ総文祭・北部九州総体・中地区サミット等他校の生徒と交流する機会が多かった。
		新役員研修を実施する。	7月に実施する。	3.8	7月に研修会を実施し、活発な意見交換ができた。
	活動の活性化	行事を通して、生徒間あるいは生徒教師間の交流がなされ、個々の生徒の能力が発揮されるよう、内容を工夫する。	前年度の内容を一つ以上改善する。	3.5	文化祭・パネルデザイン等、創立30周年にちなんだ行事を実施することができた。
		行事のスムーズな運営に努める。	行事の一週間前までには実施要項を提示し、周知徹底を図る。	3.3	全般的にスムーズな行事運営ができた。
		各種委員会において、具体的な活動内容を定め、各分掌と連携しながら取り組む。	取り組む内容を具体的に二つ以上決め、目標について全校生徒に周知を図る。学期に2回委員会を開催する。	2.8	全校生徒への周知を図ることができなかった。
		入部状況の調査を定期的に行い、各学年と連携して、無所属生徒の活動の場を設ける。	4月、9月、1月に実施。	3.3	無所属の生徒の活動の場を設けられなかった。
		学校HPを活用し、生徒会活動や部活動の広報に努める。	更新すべき内容がないか、毎月検討する。	2.8	
	活動等の見直し	部室の使用状況を定期的にチェックし、部室を適正に使用するよう指導する。	年間6回部室の使用状況のチェックを行う。	3.0	部室の使用状況は全般的に良好であった。
		生徒会誌の内容の精査改善を図る。	学期に1回、生徒会による編集委員会を開く。	2.8	
		会則・内規・申し合わせ事項の運用状況を精査し、必要に応じて見直しを図る。 また、長期的な展望に立って生徒会予算を編成する。	2学期終了までに部内で検討を行い、3学期の部顧問会・職員会議に諮る。		

平成24年度 分掌・学年努力目標

[4:よくできた 3:大体できた 2:あまりできてない 1:まったくできてない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間反省	問題点・課題等
保健相談部	規則正しい生活習慣の確立	・自己管理能力の具体的な手だての実施	『保健便り』を年間9回発行し、啓発する。	3.8	8回で終わりそうだが、丁寧に取組んだ。学年が上がることにより自己管理が少しずつできるようになった。自己の健康への関心が高まっている。
		・健康診断の事後指導の徹底	該当生徒の保護者への連絡を徹底する。	3.5	異常があったら治療勧告書を送付し、治療を促している。
	安全で衛生的な教育環境の整備	・救急の場合の円滑な生徒への対応の実施	校医との連携をスムーズに行い安全面の強化を図る。	3.8	校医等との連携を細目にわたって確認しているのでスムーズに行えた。校医も内科検診では1人1人に話しかけ、丁寧に検診され疾病の状態を診てもらっている。
		・安全衛生に対する知識と理解の深化	安全衛生委員会を2回開いて、問題点の解決を図る。	3.5	生徒・職員共に安全安心な学校生活を送れるよう話し合った。
	学校生活への適応援助活動の徹底	来談生徒への受容的態度の徹底、心を開く環境作りの実践	昼休み・放課後は、原則として誰かが相談室に常駐する。	3.2	
		不適応生徒の早期発見・支援	年間20回以上部会を開き、情報交換をする。	3.3	
		いじめの予防・解消、各種調査の実施と分析	いじめ・意識・悩み各調査については、統合を検討し効率化をめざす。	3.8	調査を統合し、「いじめ・悩み調査」という形で年5回実施した。いじめや迷惑行為について早期に把握・対応することができた。
		生徒理解のための、心理テストの実施と活用	内田クレベリン・シグマ検査の報告会を、1・2学年に1学期中に実施する。	3.8	説明報告会を6月中旬に実施することができた。
	各分掌・学年・スクールカウンセラー・保護者・中学校・外部機関との	特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーの連携を強化	AT合格発表後、気になる生徒が在籍する中学校訪問を計画・実施する窓口となる。	3.8	スクールカウンセラーや養護教諭・担任との連携を密にしながら、支援を要する生徒への対応をはかった。SCカウンセリングを通して、普通に学校生活を送れるようになった生徒も多い。
		事例研究などをすすめ、職員の共通理解を深化させる職員研修の実施	事例研究を年間2回は行う。1回目、夏季休業期間。2回目3学期。日ごろから担任・学年との情報共有をはかる。	3.8	SC湯浅先生の協力で、1回目「問題を抱えた生徒の理解と対応」、2回目「次年度に向けての事例研究」(2月予定)という形で実施した。適宜、生徒情報を流した。
地道で円滑な奨学金の運営	各種奨学金の紹介、手続きの徹底	必要に応じて、生徒・保護者への説明会を適宜行う。	4.0	計画的に実施できた。	
教育活動の土台としての人権・同和教育の推進	生徒間に自尊感情・思いやりのこころを育成	2学期に講演会を実施する。適宜、機会をとらえて集会などで呼びかける。	3.8	「デートDV」に関する講演を実施した。生徒の反応も良かった。	
事務部	組織的取組の推進	・学校窓口としての認識(丁寧な来客・電話対応等)	随時	3.5	・受付窓口の改修により、来客への対応がスムーズに行えるようになった。
		・教育行政の円滑化(県教委・校内とも早期の報告・連絡・調整)	随時	3.0	・事務室内にデマンド監視装置を設置し、より一層節電に努めた。
	予算執行の適正化	・長崎県財務規則に則った計画的かつ適正な予算執行に努める	随時	3.0	
	施設設備の改善	・長期的展望と生徒の目標に立った改善に努める	学期に1回以上安全点検を行う	3.0	
	環境美化(対策)	・節電・ゴミの減量化・分別の広報と実践(教職員・生徒)に努める	適宜行う	3.5	

平成24年度 分掌・学年努力目標

[4:よくできた 3:大体できた 2:あまりできてない 1:まったくできてない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値または期間	年間反者	問題点・課題等
1学年	生活指導の充実	基本的な生活習慣を確立し、将来の社会人生活に適應できる力を身につけさせる。	宿泊研修を中心に事後指導を実施し1学期中	2.7	一部の少数の生徒が目立つだけで、全体的には良い方向に向かっている。 数名の生徒が生活面・学習面で秩序を乱す場面が多く見られた。 上級生に比べて挨拶はよくできている。 基礎学力の定着、学習習慣の確立が急務である。 時間や提出物の厳守のさらなる指導が必要である。
		校則を守らせ、社会規範を身につけさせる。	学年集会の講話や行事等機会をとらえて随時おこなう。	2.9	
		約束された時間をきちんと守れる厳しさを身につけさせる。	宿泊研修を中心に事後指導を実施し1学期中	2.7	
		部活動・学校行事・生徒会活動に積極的に参加させ、学校やクラスへの帰属意識を高めさせる。	部活での活動率90%以上を維持する。	2.9	
	学習・進路指導の充実	基礎・基本を重視した分かりやすい授業を心がけ、基礎学力の定着を図る。	各教科で研究授業・公開授業を1回以上実施する。	2.6	
		家庭学習や積極的な質問など、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。	家庭学習調査を定期考査前に1週間おこなう。	2.3	
	明るく素直な心の育成	適切な進路情報を提供し、進路に対する意識を高めさせ、適切なコース選択をさせる。	1年間で個人面談を2回以上実施する。	3.1	
		素直で、思いやりにあふれる暖かい人間関係の確立に努めさせる。	「東冶」の時間を10回以上実施して人としての在り方・生き方を考えさせる。	2.7	
	保健・環境美化指導の充実	保護者との連携を密にし、心身共に健全な育成を図る。	欠席・遅刻の連絡は保護者から徹底し、無断欠席・遅刻がないようにする。	2.9	
		健康管理の徹底を図り、遅刻・欠席の防止に努める。	保健便りを活用して3回以上HRで指導する。	3.0	
2学年	爽やかで豊かな心の育成	掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境づくりに努める。公共物を大切にすることを育てる。	毎日監督につき指導する。公共物の破損をなくす。	3.1	
		部活動・学校行事・生徒会活動に積極的に参加させ、東高の中堅学年としての自覚を持たせる。	各活動において、目標を立てさせ、真摯な態度で取り組ませる。	2.7	
		思いやりにあふれる豊かな感性の育成を図り、自律した生活の確立に努めさせる。	「東冶」の時間を年間10回以上実施する。	3.7	
		朝の読書の時間や掃除の時間を通して、生活環境の充実を図らせる。	毎日、監督につき指導する。公共物の破損をなくす。	3.0	
	生活指導の充実	保護者との連携を密にし、学校と家庭が共通理解のもとで、生徒の健全な育成を図る。	全生徒に対しての三者面談および必要に応じての電話連絡、家庭訪問を実施する。	3.3	
		気持ちのいい挨拶と敬語を用いた言葉遣いを身に付けさせ、礼儀正しい生徒を育てる。	授業開始の挨拶、集会時の挨拶などを大きな声で爽やかにさせる。	2.6	
		基本的な生活習慣やマナーを守らせ、品位と落ち着いたある生徒を育てる。	学年集会の講話や行事等機会をとらえて随時おこなう。	2.4	
	学習・進路指導の充実	時間厳守の姿勢を育て、安易に遅刻・欠席をしないように努めさせる。	日々の遅刻指導および修学旅行の事前指導を通して、時間厳守を意識させる。	2.6	
		基礎・基本を重視した分かりやすい授業を心がけ、基礎学力の定着を図る。	各教科で研究授業または公開授業を1回以上実施する。	3.1	
		授業を中心にして、モートレ・補習・学習会を効果的に運用する。	定期考査前1週間に放課後自学を実施する。コースに応じた学習形態を計画する。	3.4	
適切な進路情報を提供し、キャリア教育・職場体験学習などを通して、進路に対する意識を高めさせる。	1年間で個人面談を2回以上実施する。キャリア教育・職場体験学習を実施する。	3.4			

平成24年度 分掌・学年努力目標

[4:よくできた 3:大体できた 2:あまりできてない 1:まったくできてない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間反省	問題点・課題等
3学年	生徒全員の進路実現をめざし、進路進所(処)、進材育成の進路指導。	大学入試(センターテスト、推薦入試、AO入試)に対応した補習、学習会、小論文・面接指導、個人添削等の指導を充実させる。	国公立大学合格者5名以上。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大8名受験とセンター試験5名受験は進学の実向上を目指した成果だと考える。生徒を1,2年次から振り起こして上位層を囲い込む指導が重要であろう。 ・合格者数自体は目標数値に届いていないが、三者面談、個別面談等を通して高い目標を掲げ、意欲的に取り組んだ生徒がいたことはよかった。 ・補習を生徒の進路希望に応じて柔軟に実施したことが効を奏した。 ・モチレ等を利用して就職のための指導ができたのでよかった。 ・看護・医療系の進学希望者が学年が進むにつれて減ってきた。学力の保障とともに、職業理解の場を多く設け、希望者の確保に努めたい。 ・就職内定率97%で年度内に全員内定できる見込みである。就職ガイダンス等きめ細かく指導した成果であると思う。 ・進路指導部との連携がうまくとれ、担任として指導しやすかった。 ・学校全体での取り組みもあり、挨拶は格段によくなった。言葉遣いがまだTPOにあわせられない部分がある。 ・容儀検査を事前に予告しているにもかかわらず、男子の頭髮の違反が目立った。女子の容儀検査は最後の数回は違反が10名以下だった。 ・ほとんどの生徒の出席状況は良好だったが、長欠、特定の生徒の欠席が出席率を大きく下げた。 ・今後とも本校への入学希望者を増やす努力と中学校への宣伝を強化すべきだと考える。
		高学入試に対応し、補習、学習会、小論文・面接指導等の指導を充実させる。	高学合格10名以上。	4.0	
		就職試験に対応した補習、学習会、面接指導等を充実させる。	就職率100%。	3.7	
		生徒の進路について保護者との連携を密にする。	三者面談を2回以上行う。	3.0	
		生徒とのコミュニケーションを活発に行うとともに、計画的面談を実施し、生徒理解と信頼関係の構築を図る。	個人面談を3回以上実施し、生徒の情報は学年で共有する。必要な面談は機を逃さずに行う。	3.2	
		挨拶と言葉遣いが適切にできるようにする。	日常的に指導する。	2.8	
		清潔で端正な身だしなみをさせる。	容儀検査で指導される生徒を10人以下にする。	2.8	
		生徒の生活面について保護者との連携を密にする。	欠席、早退については確実に連絡を取る。気になる点は早期に連絡する。	3.2	
		規則正しい生活を送らせ、極力欠席をさせない。	学年の年間出席率99%以上。	2.8	
		業務の改善を行い、効率化を図る。	業務の改善案を1人1件以上提案する。	3.0	